

「信州ハムSDGs基金」助成金実績報告書

2024年 9月 18日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 軽井沢町長倉4659 - 7

団体名 中軽井沢みらい畑

代表者職氏名 津田 尚子

印

「信州ハムSDGs基金」助成金について、下記のとおり報告します。

記

1. 冠基金名

信州ハムSDGs基金（軽井沢助成）

2. 助成金活動内容（この事業で具体的にやったこと）

- ①講師講習会開催と学んだことの実践（2023年11月～継続中）
- ・身近な有機物を畑の土づくりに使う方法を学ぶ講習会（2回）
→ウッドチップたい肥、油かすと米ぬかの補い、タンニン鉄、草マルチを使った畝づくり
 - ・農薬や肥料を使わない自然栽培の実践
- ②たい肥小屋の新設
- ・①で学んだことを今後も継続するために必要な小屋を新設する
- ※提出した助成申請書では「借りている部屋の修繕を実施」としていたが、老朽化が思ったよりも進んでいたため、部屋の修繕ではなく「たい肥小屋の新設」に取り組むこととした。いただいた補助金で資材を購入済。2024年9月以降、建設作業にとりかかる予定。

3. 事業の成果（この事業で具体的に実現した状態、誰がどのような助けを得られたか）

畑で野菜作りをする場合、多くの人が「肥料が必要」「農薬による除草や防虫が必要」と考える。しかし、人の手が全く入らない森を見ると、自然界にある有機物のみで豊かな循環が成立している。これに習って農作物を育てる方法を「自然栽培」という。この事業では自然栽培の理論的な学びだけでなく、ここ軽井沢の畑でもそれが可能なのか、私たちのコミュニティ農園を使って実践も行った。対象としたのは【なるべく環境に負荷のかからない持続可能な食の生産に興味がある一般の人】。

講師は、軽井沢で自然農・自然栽培・有機栽培を手掛けている農家の長崎智さん。地元の風土に詳しいため、軽井沢ならではの話を聞くことができた。講習会時だけでなく、常時畑の様子を見ながらアドバイスいただけたことも参加者にとって有意義であった。

短期間でも成果を感じられることと、2年3年と長い時間をかけることで成果が現れることがあるため、今後も引き続き実践を継続する予定。たい肥小屋の設置は講師からのアドバイスでもあり、長期的な取組みの大きな手助けになる。軽井沢町では貯木場でウッドチップを配布している。ウッドチップたい肥や雑草たい肥を身近な資源として畑で有効活用できることを、自信を持って発信できることを目標に、引き続き経験を積み、仲間を増やしたい。

(様式第3号)

4 寄付者様へのご報告（メッセージ）

このご縁に心から感謝申し上げます。私たちの畑活動は今年で3年目です。今回いただいたご寄付により、知識、経験、設備の面で、大きく前進することができました。

「環境に配慮した農業がある」と知り、その実践をしてみたいと、畑初心者が勢いで始めた活動です。「無農薬・無化学肥料栽培」と言っても、それを簡単にひとくりにすることはできないことも知りました。土づくりに何をを使うか、農を実践する人によりその選択は様々です。

今年私たちがたい肥の材料として選択したウッドチップ・雑草は、ここ軽井沢で手に入りやすい資材です。自然栽培においてはそれらが廃棄物でなく逆に、土づくり、野菜づくりに有効な【資源】であること＝資材の自給自足が可能であることを広く周知し、多くの方に関心をもっていただけたら…それが軽井沢の豊かな自然環境を守ることにつながるのではないかと考え、この事業に取り組みました。

今回の事業の参加者は、子育て世代が多いです。子どもたちには、軽井沢の豊かな自然環境を手渡したい。中でも、身体と心の元気を生み出す野菜やお米が育つ【豊かな農地】が、この地域に広がっていくことを望んでいます。「食、農、環境のつながりが感じられる畑」それが中軽井沢みらい畑です。

実際問題としては、慌ただしい日常の中でどれだけの手間ひまをかけて畑の活動に取り組めるか、次々と生えてくる雑草対策に追われつつ、満足のいく収量が確保できるかなど課題だらけです。それでも、消費者として、親として、小さな試行錯誤を繰り返し、農のある暮らしを楽しんでいることに変わりはありません。

近年、気候変動問題が世界的に大きく取り沙汰されています。軽井沢町もちょうど今年から「環境基本計画」がスタートし、行政だけでなく、環境問題に関心のある個人や事業者がつながり始めているのを感じます。そのような流れの中で、ここ中軽井沢みらい畑が今後「食・農・環境のつながりを考えるひとつ拠点」となるべく、これからも一步一步成長ながら活動を楽しみたいと考えています。

5. 助成対象事業の実施状況を示す書類（添付書類）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支報告書の証拠書類（領収書の写し等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）



2023年11月

- ・ 中軽井沢みらい畑の現状把握
- ・ 長崎さんの畑を見学



2023年1月28日講習会

- ・油かすと米ぬかの補いづくり
- ・緑茶とステンレスたわしでタンニン鉄づくり

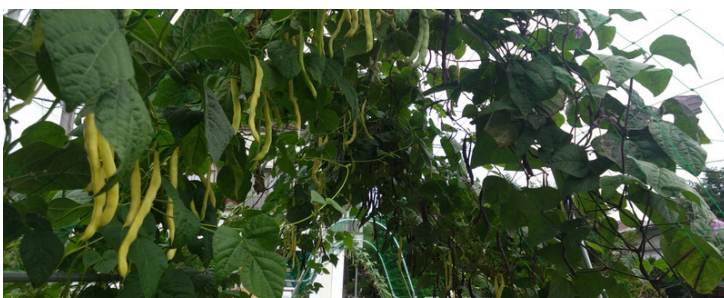
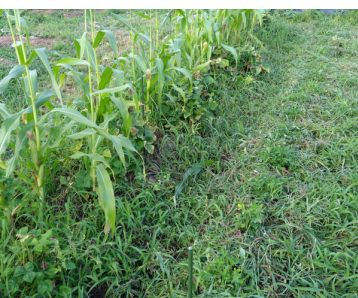
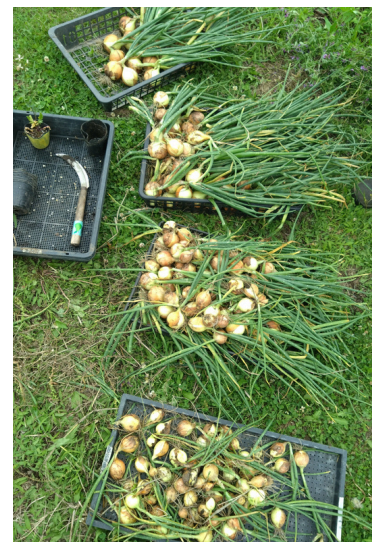
・

・



2024年3月16日講習会

- ・ ウッドチップたい肥の作り方
- ・ 地力の弱った畝の整備
- ・ レタスや春菊などの種まき



中軽井沢みらい畑

2024

— 自然栽培に挑戦しました —

「信州ハム SDGs 基金」助成金実績報告書

2024年8月27日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地	長野県北佐久郡軽井沢町長倉 1387
団体名	NPO 法人軽井沢教育ネットワーク
代表者職氏名	諸星ひとみ 印

「信州ハム SDGs 基金」助成金について、下記のとおり報告します。

記

1. 冠基金名

信州ハム SDGs 基金（軽井沢助成）

2. 助成金活動内容（この事業で具体的に行ったこと）

2023年10月17日(19:30から21:30)オンラインで講演会を実施。
講演会用のチラシを配布し、町内の学校や教育委員会・公共施設・幼稚園へ周知を行いました。
当日は、信州大学の子どもこころ診療部の本田秀夫先生に
「特性のあるこどもの進学や就労について」と題して講演をいただきましたが、全国から86名の参加をいただきました。

3. 事業の成果（この事業で具体的に実現した状態、誰がどのような助けを得られたか）

特性のある子どもは年々増加していますが、その対応は各地域、各学校さまざまです。
軽井沢の3小学校・1中学校においても対応するクラスが増加するなど、子どもの特性に合った学び方や育ち方に対応するためには、教育環境も大切になってきます。周りの大人の理解が大切ですので、保護者はもちろん、町内の教育現場の方や生涯スポーツの指導者に届くようにチラシを配布し、子どもに関わる全ての大人を対象としました。
本田先生に講演をいただくのは今回で2回目でしたが、特に今回は子どもの成長する過程で不安がつきまとう進学と就労について講演いただきました。
中学1年の子どもを抱える方も多く、小学校とは違った悩みも多くなり、喫緊ではないものの将来を左右する高校進学への不安を抱えた保護者が多かったため、この先2年かけて保護者が

どう行動するかをアドバイスをいただきました。高校選びや、高校の入学試験の方法、入学後の進路選択など悩みは尽きないのですが、それを早めに保護者が覚悟することで子どもに変なプレッシャーをかけずに済みます。クラス替え・担任や上司が変わる・教育方針の変化など、子どもの成長する環境・生活する環境の変化が引き起こす心の不安を理解・予想できるかが鍵になります。先を見据えながら日々の成長を感じることができれば、心の余裕から適切な言葉選びや態度が自ずと生まれてきます。そんな成長をゆっくり待ってられる環境づくりには本当に必要な講演会でした。小さなお子さんをお持ちの方にも、将来生じる悩みや子どもの将来も想像でき、心の準備ができるような内容でした。

この講演をきっかけに会の周知を進めました。本年度は県の発達コーディネーターの方に来ていただきペアレントトレーニングを行えるようになり、少しずつですが会の存在が浸透し、悩める保護者が集まるようになってきたと感じています。

4 寄付者様へのご報告（メッセージ）

今回は特性のある子どもの成育環境を考える当団体に支援いただきまして、大変感謝しております。

当団体の発足は 2019 年ですが NPO になってからは日が浅く、まだまだ会員が少ない状況です。活動内容の理解もさることながら、特性のあるお子さんをお持ちの方でも入会をためらう場面もあります。それはやはり、日本の社会構造の中でまだまだ発達障がいへの理解が得られていないことが原因だと思います。子どもの発達の遅れを認めたくないという保護者や、特性は誰にでもあるにも関わらず枠組みを設けてしまう教育現場、悩みはあるのに誰に相談したらいいかわからない・勇気がない、行政の取り組みが後手になる等、子どもにとって心地よい環境を得るチャンスを大人の判断が狭める場面も多いと感じます。

私たちは、今までの常識が通じない世の中を想定しながら、私たち大人が変わらざるをえないと覚悟をし、一人ひとりがデコボコのまま学べる教育環境を求めています。子どもが義務教育を経て飛び込む社会が変わることが一番大変だと思いますので、何卒ご理解いただき、働きやすい環境づくりに配慮いただけると嬉しいです。

今回は本当にありがとうございました。今後とも縁が切れず継続して活動がお伝えできればと思っています。

5. 助成対象事業の実施状況を示す書類（添付書類）

- (1) 収支報告書（様式第 3－1 号）
- (2) 収支報告書の証拠書類（領収書の写し等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）



特性のある子どもの

進学や就労に

10/17

オンライン開催

19:30~21:30

火

ついて

参加費1000円

講師

信州大学 子どものこころ診療部
本田秀夫先生

発達障がいのお子さんをお持ちの方



教育関係者
生涯教育に携わる方



本田先生への質問



主催

NPO軽井沢教育ネットワーク
～こんべいどうの会～

子ども達の特性を知って、全ての子ども達が居心地よく育っていける環境を整えるための活動をしている団体です。



お申込み・お問い合わせ

090-1767-1529

Mail

stellastudio.waka@gmail.com

申し込み方法

このオンライン講演会へ参加の場合はPeatixに無料登録し、チケットを購入してください。

Peatix
アカウント
無料登録

パソコンやスマートフォンからお申し込みできます。購入後アカウントにチケットは発行されます。

チケットを
申し込む

Peatixのチケットは、パソコン、スマートフォンなどからお申し込みいただけます。

チケット
購入

お支払いは各種クレジットカード・コンビニ・ATM(ペイジー)・Paypalがお使いいただけます。

視聴

アプリにログインすると、チケットが表示されます。当日はチケットを開いていただくと、そのまま視聴できます。

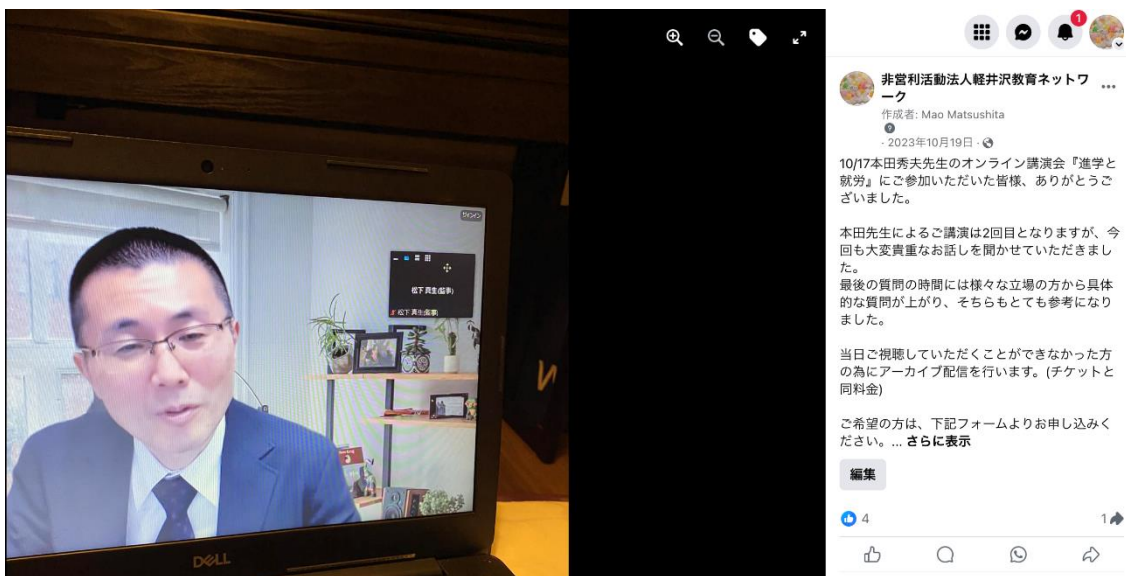


購入はこちらから

軽井沢教育ネットワークの活動

- ・ 本田秀夫先生によるオンライン講演会
「みんながHAPPYになれる自分たちのものさしづくり」開催
- ・ 社会福祉士とのオンライン勉強会「不登校と就労支援を学ぶ会」開催
- ・ 軽井沢プリンスショッピングプラザGap職業体験
- ・ 軽井沢高等学校 校長先生との懇談
- ・ 軽井沢町教育委員会と軽井沢町に要望書を提出
- ・ 餅田亜希子STによるオンライン講演会
「吃音のある子どもと家族の支援」開催
- ・ 長野大学社会福祉学部研究協力

年間2回の各学校訪問
と教育長との懇談会
座談会の開催



10月17 本田秀夫先生による講演会 特性のある子どもの進学や就労について

イベントは終了です (火) 19:30 | オンライン | By NPO 軽井沢教育ネットワーク (こんべいとうの会)

ファミリー/キッズ

子育て

小学生

教育

発達障害

高校生